

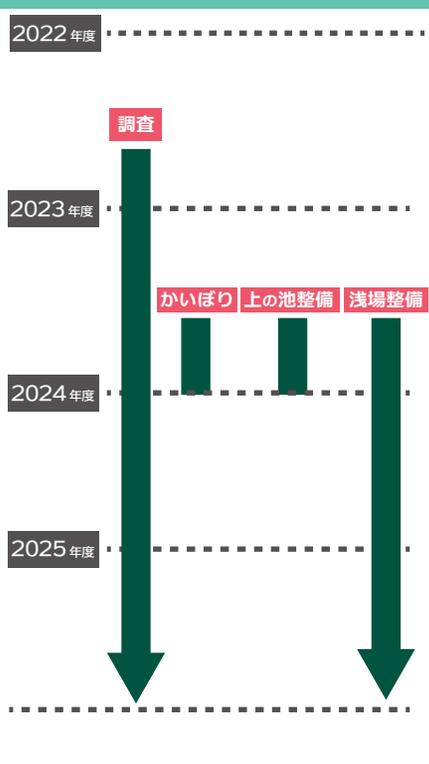


東大和二ツ池だより

第6号
(2025年11月)

発行 東大和市
市民生活部環境対策課
編集 認定NPO法人 生態工房
●この印刷物には再生紙を使用しています

二ツ池公園 水辺整備の経過

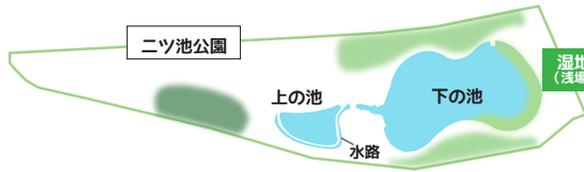


種子から復活した植物

東大和市では二ツ池（下の池）の護岸付近に水深の浅い区域（浅場）の設置を行い、湿生植物の生育環境を整備しています。2025年現在、池岸の約30%の区間に湿地が創出されています。

また、かつて上の池があった場所を掘り、浅い池を整備しました。

こうした水辺の整備をボランティアとともに進めた結果、2023年に12種だった水生・湿生植物は2025年に25種に増加（外来種を除く）。マツカサススキ、ミズニラなどの絶滅危惧種5種が生育するなど、自然再生の成果が確認されています。



水辺の植物、昆虫が 増加

絶滅危惧種も 復活した二ツ池

二ツ池で実施している生きもののモニタリングにより、湿生植物や水生昆虫の種類が増加したことがわかりました。東京都の絶滅危惧種も確認されるなど、水辺の生物多様性が少しずつ回復しています。

整備した「湿地」「上の池」で確認された湿生植物



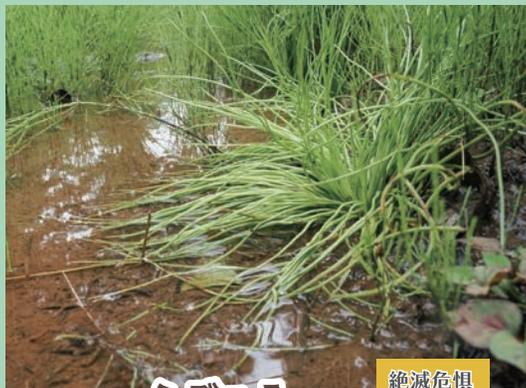
マツカサススキ 絶滅危惧 IB類



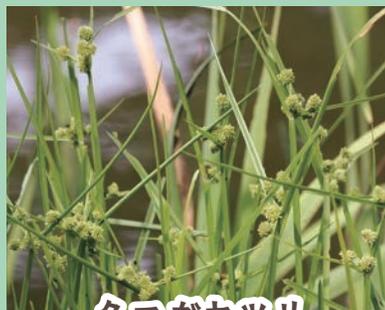
クロテンツキ 絶滅危惧 IB類



ヒロハノコウガイゼキシヨウ 絶滅危惧 IA類



ミズニラ 絶滅危惧 IB類



タマガヤツリ

東京都レッドリストの 카테고리区分

絶滅	野生絶滅	絶滅危惧IA類	絶滅危惧IB類	絶滅危惧II類	準絶滅危惧	情報不足	留意種
----	------	---------	---------	---------	-------	------	-----

大 ← 絶滅のリスク

シャジクモを初確認

2025年8月には下の池の浅場でシャジクモが確認されました。シャジクモはアメリカザリガニによる食害や水質悪化などの影響で全国的に減少しており、環境省と東京都のレッドリストに掲載されています。

シャジクモなどの沈水植物の茂みは水生昆虫や小魚などのすみかになり、生物多様性が格段に向上します。シャジクモの生育地点は今のところ、アメリカザリガニがない浅場内に限られています。ザリガニ防除によるシャジクモの生育範囲の拡大に期待がかかります。

眠りから覚めた種子

水草や湿生植物は、洪水で土砂に埋没するような環境で生きています。こうした場所でも世代をつないでいくために、永く休眠する種子をつくり出します。種子が低温や乾燥にさらされることが発芽の刺激になると考えられています。

下池に整備した浅場には、下池の泥や、上池の掘削土が使われています。整備後の浅場や上池には、それまで園内で見つけていなかったさまざまな湿生植物が生えてきました。二ツ池が「ため池」として利用されていた昭和中期頃に生育していたであろう植物が、かいぼりをきっかけによりみがあったと考えられます。



水中のシャジクモ (都外で撮影)



シャジクモ

絶滅危惧 II類

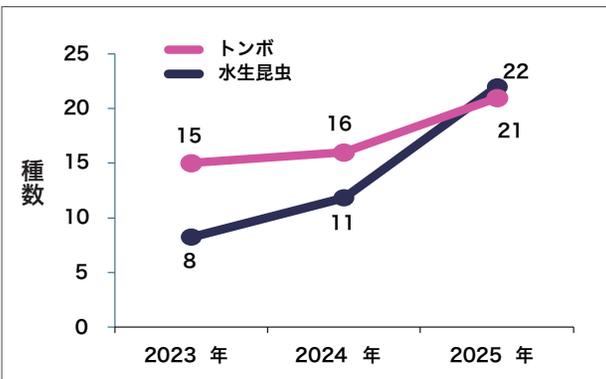


図. 種数の変化

水生昆虫、トンボが増加

トンボは種類によって水辺環境の好み異なることから、水辺環境の多様さの指標になります。2025年には新たに5種のトンボが確認されました。オオヤマトンボは開けた水面、コフキトンボは抽水植物と水面のある池、ハラビロトンボは浅い湿地、シオヤトンボは泥の露出した湿地を好みます。

2023年以降に整備されたこうした環境がトンボの種数増加につながりました。

アメンボ、ガムシなどの水生昆虫は、水辺の植生や水深などの環境に対応してさまざまな種が生息します。二ツ池の水辺環境が豊かになったことを反映し、水生昆虫の種数が整備前の8種から22種に増加しています。



シオヤトンボ(メス)
上の池で産卵していた。

準絶滅危惧



ハラビロトンボ
(都外で撮影)

準絶滅危惧



キイトトンボ

絶滅危惧 IB類



エサキコミズムシ

募集 狭山丘陵保全班 体験参加

ボランティア「東大和市狭山丘陵保全班」の活動体験日を設けています。2025年9月から2026年2月まで、月2回程度行います。狭山丘陵の谷戸の水辺再生を進める仲間になりませんか？詳細はホームページをご覧ください。



生態工房

検索

<https://www.eco-works.gr.jp/>

